

授 業 科目名	事前・事後指導	必 修	開講年次	3・4	単位数	1						
科目区分	教職に関する科目（教育実習）											
サブ タイトル	教育実習に向けて・教師となるために	担当者	小松 伸之									
講義概要	<p>【概要】 本講義は、教育実習の準備を行う「事前指導」と、教育実習における経験を整理して自らの課題を発見する「事後指導」からなる。事前指導では、教育実習をより有意義なものとするために、学校現場に行かなければ学ぶことができないことを把握したうえで、生徒との関わり方や授業の組み立て方について学ぶ。事後指導では、教育実習での経験を振り返り、自らの今後の課題・目標を明確にしていく。（第1回～4回が事前指導、第12回～15回が事後指導となる。）</p> <p>【到達目標】 教育実習を通して、学校現場に対する理解を深めるとともに、教師として求められる資質の向上をはかる。</p>											
履修条件	教員免許取得に必要な単位を卒業時までに取り終えることが出来る者。											
教科書・ 参考書	<p>【教科書】小泉博明・宮崎猛『教育実習まるわかり』小学館 教育実習日誌（ノート）</p> <p>【参考書】適宜、教場で指示する。</p>											
授業回数	内容											
1	教育実習の心得、なぜ教育実習に行くのか？											
2	教師はどのような仕事をしているのか？											
3	生徒との関わり方、学級経営とは何か？											
4	よりよい授業を行うために、教材研究・授業準備の方法											
5	↑ ↓											
6												
7												
8							教育実習期間					
9												
10												
11												
12	教育実習を振り返って、学校現場における気づき											
13	実習日誌を読み返す、教育実習の分析、成果と課題											
14	課題の共有、改善の手立て											
15	よりよい教師となるために、教師として採用されるために											
評価方法	教育実習先における評価、教育実習日誌の内容・分析・レポート ※出席は評価の前提条件となる。また、受講者には授業への積極的な参加を求める。											
評価基準	教育実習先から高い評価を得、かつ事前・事後指導に意欲的に参加し内容をよく理解した者に「A」を与える。教育実習先からの評価や内容理解について、不適切な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。											
その他	教育実習生は「先生」として学校現場へ赴くことになるので、「教師になりたい」という強い意欲のある者のみ受講すること。また、教育実習と同様に遅刻・欠席は認めない。 ※以上が守れない場合、受講の停止や教育実習の中止を勧告する。											